

長年にわたり産科医療に貢献

三井氏(三井病院)へ厚生労働大臣表彰

医療法人なごみ会産婦人科小児科三井病院(鶴岡市美咲町)の三井盾夫院長(69)が、本年度の産科医療功労者として厚生労働大臣の表彰を受けた。三井院長は「表彰を励みに、今後もできる限り産科医療を続けていきたい」と話している。

同表彰は、長年にわた



地域の産科医療に貢献したとして、厚生労働大臣表彰を受けた三井盾夫院長

り地域のお産を支え、産科医療の推進に貢献してきた個人や団体、医療機関を対象に、各都道府県が功績の顕著な人に贈るもの。本年度は全国の41個人と1団体、医療機関2施設が表彰を受けた。県内の表彰者は三井院長のみ。

三井院長は、三井病院の創設者・三井徹氏の長男として生まれ、新潟大学医学部を卒業。新潟病院産婦人科勤務を経て古里鶴岡に戻り、1970年から三井病院副院長、85年に院長となった。95年産婦人科に加えて小児科

を設置。2001年に鶴岡市本町一丁目から現在地へ病院を移転した。表彰式は今年22日、東京都内で行われ、三井院長は夫人と共に出席し表彰状と記念の盾を受け取った。三井院長は「表彰状には『産科医療の確保と決意を新たにしました。』

に寄与した一文がある。少子化の影響で赤ちゃんの数が少なくなっており、同時に産科医療に就く医師も減っているものと再認識させられた」と話すとともに、「今回の表彰は長年続けてきたことへの褒美と受け止めている。今年の5月には70歳になるが、地域の産科医療のためにできる限り続けていきたい。まだまだリタイアできない」と決意を新たにしている。

庄内日報

週間ファイル (1月22日付—1月27日付)

【新たに小水力発電装置設置】鶴岡市の水土里ネット笹川(笹川土地改良区)は19日、同市東堀越の農業用排水路にマイクロ水力(小水力)発電装置を設置、実用化に向けた実証試験をスタートさせた。県小水力発電導入促進事業を活用して初めて実施。(22日付)

【鶴岡出身の北勝国が引退】大相撲郷土力士で三段目東22枚目の北勝国(27)＝本名・林英明、鶴岡市出身、八角部屋＝が20日、日本相撲協会に引退届を提出した。東十両6枚目だった昨年7月の名古屋場所の途中で、右膝の剥離骨折、靭帯損傷などの大けがを負って以来、休場が続いていた。来月2日に東京・両国国技館で断髪式が行われる。(22日付)

【寒ダラ漁最盛期】庄内浜の冬の味覚を代表する寒ダラの底引き網漁が最盛期を迎えている。21日は久々になぎの日となり、各漁港では本格的な水揚げに市場が活気づいた。(23日付)

【両県境の新規事業化を要望】日本海沿岸東北自動車道(日沿道)で未整備となっている庄内を挟む新潟、秋田両県境区間のミッシングリンクの解消に向け、吉村美栄子県知事らが22日、太田昭宏国土交通相に2013年度の新規事業化を要望した。要望に対し太田国交相は「できるだけ早くやりたい」と述べ、早期の事業化に前向きな考えを示した。(24日付)

【木材漂着1080本に】今月16日から庄内沿岸に木材が大量に漂着している問題で、県庄内総合支庁は23日、専門家の現地調査の結果、ほとんどがロシア産のエゾマツで、同日までに計1080本に上っていると発表。(25日付)

【ブリコがびっしり付着】海洋生物の保全活動を展開する酒田市のNPO法人みなと研究会が、同市の酒田北港内に設置していたハタハタの産卵床に関し24日、観測調査を行ったところ、産卵床一面にブリコがびっしり付着していたことが分かっ

庄内弁の作品

「春秋山伏」

平野周 澤田周 藤沢周 澤田周

鶴岡市立藤沢周平記念館で26日、「春秋山伏記」を聴く」と題した館内朗読会が開かれた。藤沢文学ファンの市民ら約20人が参加し、庄内弁に

連イベントとして同記念館が企画した。館内のロビーを活用した初の朗読会で、劇団表の会(鶴岡市)で演出や舞台監督を務めている阿藤貞夫さん(77)が朗読を担当。地元を舞台にした作品に親しんでもらおうと「春秋山伏記」を取り上げ、冬の季節に合わせて「狐のあし跡」の章を朗読した。ガラス越しに外の雪景色が見えるロビーの一角をついたことで仕切って会場を設定。こちんまると

11:00 開演
8:00 入場
15:30 開演
9:30 開演
15:00 開演

スケジ

榎本鶴岡

15:30 行

原田庄内

9:30 予

時田遊佐

9:30 課

15:00 日

芝



を披露した羽黒高チア部のメンバーたち

た後、同校の牧静雄校長が「本校の団体競技 催される。

